stage 2　稲沢市が目指す観光

観光まちづくりで、稲沢市の様々な資源をつなぐ。

現在、日本全国の自治体が観光振興やシティプロモーションに力を入れていますが、各地で似た観光地が増えており、「儲けること」「人を集めること」を目的とした観光施設の設置や誘客イベントにも継続性や費用対効果の面で限界が出てきています。

一方、本市を含むエリアに目を向けると、2026（平成 38）年の夏季アジア競技大会が愛知県と名古屋市との共同開催で行われることが決定するなど、世界的なイベントが控えているとともに、2027（平成 39）年にはリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業も予定されており、人や物の流れが大きく変わる変革の時代を迎えることとなります。そのため、これらの環境の変化を好機と捉え、地域が一体となり知名度向上と観光振興に取り組むことで、内外からの活力を取り込み、地域の活性化に繋げていくことが重要となっています。

そのような状況の中、稲沢市では「観光のためにハコモノを造ろう」「観光のために地域資源を使おう」という視点から逆転し、「地域の活性化やまちづくり・人づくりの“手段”として観光を活用しよう」という視点に着目した『観光まちづくり』を進めていきます。

多くの方が「稲沢市は観光地ではない」と考えていると思います。しかし、私たちが目指す観光は、「稲沢市を観光地にすること」ではありません。私たちが目指す観光は、祭りやイベント、自然の豊かさ、文化財、植木・苗木をはじめとする地場産業等の多様な地域資源やそれらを支える“ヒト”といった稲沢市が持つ“光”を観光まちづくりの取り組みによってつなぎ、様々な交流を生み出すことで、稲沢市の活性化につなげていくことです。

観光まちづくりは、行政の力だけでは推進できません。市民や民間事業者、ＮＰＯ等、様々な主体の協力が不可欠となります。

そのため、稲沢市が一丸となって、観光まちづくりを進めるための普遍的なテーマ（基本理念）を定めました。

■稲沢市における観光まちづくりのテーマ（基本理念）

「稲沢の“光”をつなぐ観光まちづくり」

観光の語源は「国の光を観る」ことです。
稲沢市の持つ“光”とは、祭りやイベント、自然の豊かさ、
文化財、植木・苗木をはじめとする地場産業等の
多様な地域資源であり、それらを支える“ヒト”でもあります。
観光まちづくりの推進により、“光”をつなげ、
様々な交流を生み出すことで、稲沢市の活性化につなげます。

第3章　重点アクションプラン

「（仮称）いなざわ観光まちづくりラボ」の立ち上げと推進

稲沢市ならではの観光まちづくりを推進するため、第１章で掲げた３つの基本方針に基づきアクションプランに取り組んでいきます。その成果を稲沢市の活性化につなげていくためには、取り組みの主役となる「ひとづくり」と推進主体となる「組織づくり」が何よりも重要となります。

現在、稲沢市では様々な分野で多くの人材が活躍しています。観光まちづくりを推進するためには、こうした人材の育成だけではなく、継続的な事業展開に向けたさらなる人材の発掘が求められます。また、各人材が個々の分野で活躍するだけではなく、有機的なネットワークを構築し、相乗効果を高めていくことが求められます。

そのため、本ビジョンにおける重点アクションプランとして、観光まちづくり推進体制の核となる“「（仮称）いなざわ観光まちづくりラボ」の立ち上げと推進”を位置付け、「ひとづくり」と「組織づくり」を推進していきます。

「（仮称）いなざわ観光まちづくりラボ」は、2017（平成 29）年度に設置された「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議」を基にした市民主体の実践組織であり、稲沢市の観光まちづくりにおける推進主体となります。

稲沢市観光協会をファシリテーターとしながら、市民や関係機関・団体、行政等、多様な主体のネットワーク化を図り、協働による事業の持続性や発展性を高めていきます。また、組織づくりだけではなく、観光まちづくりを担うプレイヤーの裾野を拡げていくため、人材の育成・発掘を図り、組織の基盤を構築していきます。

そして、各主体が「（仮称）いなざわ観光まちづくりラボ」を媒介として有機的につながり、それぞれの役割やノウハウを活用し合うことで、稲沢市ならではの着地型観光メニューの創出や新たな観光・交流事業の推進、魅力の再発掘・再構築を実施していきます。

？ 稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議とは・・・

アクションプラン検討会議は観光に携わる多様な主体が集まり、観光を通じた稲沢市の活性化を検討･実践していく組織です。2017（平成 29）年度はワークショップを通じて「稲沢市観光まちづくりビジョン」に基づくアクションプランの事業立案を行いました。

（☛ 資料編 P.45～46 を参照）

■アクションプラン検討会議で協議されているプロジェクト（2017（平成 29）年 12 月現在）

プロジェクト1 「稲沢まるごとイルミネーション」

LEDを活用し、市内全体をイルミネーションで彩る。国府宮参道から他地区へ展開していくプロジェクト。

Why？（なぜ必要？）
●稲沢が何か面白いことを始めたというインパクト ●シビックプライド ●将来の定住

What？（何をする？）
●資金調達 ●協力者(木の提供者、作業協力者、LED 機材提供者)の発掘 ●プロジェクションマッピングの活用

How？（どのように？）
●学校を通じた呼びかけ ●商工会議所、名鉄･JR、市役所との連携

Who？（誰に？）
●市民 ●通勤･通学者
●名古屋にいる若者

Where？（どこで？）
●国府宮 ●平和町桜ネックレス
●国分寺
●市内大型ショッピングセンター 等

When？（いつまでに？）
●1年目：国府宮参道
●2年目：駅～国府宮
●3年目以降：他地区へ展開

プロジェクト2 「緑も歴史もある町　稲沢」

尾張国分寺跡を活用して、稲沢の歴史や植木の歴史をガイドが紹介。国分寺マルシェや植木販売と連携し、地域にお金が落ちる仕組みを構築するプロジェクト。

Why？（なぜ必要？）
●尾張国分寺跡を通して、稲沢の歴史や植木の歴史を知ってもらう

What？（何をする？）
●ガイドに稲沢、尾張国分寺跡、植木の歴史について説明してもらう ●市(いち)やイベントを行い、その中でガイドを組み合わせる

How？（どのように？）
●TVの公開放送の誘致 ●国分寺マルシェや植木販売を楽しんでもらう ●美濃路、旧郵便局をイベント会場にする

Who？（誰に？）
●新しく稲沢に来た人々 ●緑や歴史に興味がある人 ●若い親子

Where？（どこで？）
●尾張国分寺跡 ●植木センター
●文化財関連施設 ●各寺院仏閣
●梅まつり、あじさいまつり等のイベント会場

When？（いつまでに？）
計画によって、随時

プロジェクト3 「稲沢･サリオパーク祖父江を世界へ！」

シクロクロスやトライアスロン等の世界大会を誘致し、スポーツ等を通した交流機会を創出する。大会を通じて、自然体験やサンドフェスタ等への波及効果を目指していくプロジェクト。

Why？（なぜ必要？）
●四季体験 ●サリオパーク祖父江の環境を活かし、スポーツや学びを通して集いをつくり、地域の活性化の源とする

What？（何をする？）
●スポーツ世界大会 ●自然体験
●サンドフェスタ世界大会 等

How？（どのように？）
※今後、検討

Who？（誰に？）
●子ども達 ●競技参加者
●地元商店 ●研究者

Where？（どこで？）
●サリオパーク祖父江

When？（いつまでに？）
●自然関係：2、3年後
●世界大会：10 年後

プロジェクト4 「ざわざわ　つなぐ」

稲沢市の多様な魅力に関わる人やファンの人をつないでいくプロジェクト。

Why？（なぜ必要？）
●稲沢市には自然文化(イチョウ･ホタル実験田)、赤い電車など多くの魅力がある

What？（何をする？）
●「つなぐ」 それぞれのファン(関わる人)をつなぐ

How？（どのように？）
●情報を常に発信

Who？（誰に？）
●次世代 ･市外の方

Where？（どこで？）
●駅
●田んぼ(それぞれの要素による)

When？（いつまでに？）
●既に実施しているものあり 大きく拡げ、つなげていく

※いずれのプロジェクトも 2017(平成 29)年 12 月現在の内容のため、今後変更及び修正の可能性があります。